

令和 2 年 7 月 15 日現在

機関番号：13902

研究種目：基盤研究(C)（一般）

研究期間：2016～2019

課題番号：16K04825

研究課題名（和文）聴覚障害学生の英語学習実態調査と英語力向上に向けての提言

研究課題名（英文）English Education Support for University Students with Hearing Impairment

研究代表者

岩田 吉生（Iwata, Yoshinari）

愛知教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：20314065

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 3,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究では、聴覚障害学生の英語力向上に向けた一般大学の聴覚障害学生の英語力の課題の解明と効果的な指導法の提言を行った。大学で学ぶ聴覚障害学生の英語教育の他、大学入学を希望する聾学校高等部の生徒の実態を調査し、学会発表と研究論文として報告した。また、聴覚障害学生の英語教育の基本と実践例を収録したブックレットを作成し、全国の大学と聾学校に配布した。

聴覚障害者への専門的訓練を受けていない大学の英語教員に対して、より良い授業実践を行うためのアイデアを提供することができた。また、聾学校高等部の英語担当教員に対して、聴覚障害生徒の英語指導の検討することや進路指導の参考資料を提供することができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

聴覚障害者の英語教育改善の研究は、筑波技術大学や聴覚特別支援学校（聾学校）等の聴覚障害教育の専門性のある教員において主に行われてきた。しかし、一般の大学では、健聴学生と聴覚障害学生の協働学習の機会増加とともに、聴覚障害についての専門的経験のない教員が担当する機会が増え、支援方法と教授方法に戸惑いを感じていた。過去の研究成果は聴覚障害教育に特化した実践研究がほとんどで、一般的な教員の教育実践に対して有用とは言い難い状況にあった。

本研究では、聴覚障害教育と英語教育の専門家からなるチームを組織し研究を進め、研究論文および理解啓発のブックレットを作成し、成果をまとめることができた。

研究成果の概要（英文）：This study clarified the problems of English skills for University students with hearing impairment in general universities and proposed effective teaching methods for improving English ability of them. In addition, we investigated English education for students with hearing impairment, and the actual conditions of students in high school for the deaf who want to enter university. The researchers reported as academic conference presentations and research papers. Moreover, we created the booklet containing basic and practical examples of English education for deaf students, and distributed it to universities and deaf schools across Japan.

We could suggest many ideas for better class practice to English teachers at a university who did not have specialized training for the deaf. Furthermore, we were able to provide English teachers in the high school for the deaf to consider English teaching for deaf students and give reference materials for career guidance.

研究分野：特別支援教育（聴覚障害児教育）

キーワード：聴覚障害学生 高等教育機関（大学） 聾学校 英語教育 大学教員

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

聴覚障害者の英語教育改善に向けての支援研究は、筑波技術大学や全国の聴覚特別支援学校（聾学校）等の聴覚障害の専門性のある教員が聴覚障害を専門的に扱う大学および学校において主に行われてきた。しかし、一般の大学では、健聴学生と聴覚障害学生の協働学習の機会増加とともに、聴覚障害についての専門的経験のない教員が担当する機会が増え、英語担当教員らは支援方法と教授方法に戸惑いを感じている。このため、過去の蓄積されてきた研究成果が、一般的な教員の教育実践に対して有用とは言い難く、このような研究と現場の乖離から、聴覚障害と英語教育のそれぞれの分野における専門家が協働してこの問題に向き合う必要性があった。

一般の語学教員による聴覚障害者への第二言語教育は、障害学生支援の制度が充実している欧米で先駆的な研究が行われてきた。しかし、欧米の教授法は、障害学生支援に関わる法律・制度が異なる日本に適応可能とは言い難い。そのため、海外の研究を参考にしながら、日本の大学教育に応じた、一般の語学教員による健聴者と聴覚障害学生との効果的な共同授業のモデルを提示することが求められる。

2. 研究の目的

現在の英語教育改革で見逃されている障害者の英語力向上に向けて、一般大学の聴覚障害学生の英語力向上に向けての問題点の解明と効果的な教育提言を行うことを目的とする。また、本研究を通じて、聴覚障害学生の英語教育における支援方法の普及を行うことも目標とする。これらの目標のために、彼らの学習実態調査や担当教員の意識調査を行う。これらにより、教育再生実行会議提言で目指されている「グローバル化に対応した教育環境づくり」や「全員参加型社会」の実現に向けて、聴覚障害学生を含めた大学教育の一端を担うことが可能となる。

3. 研究の方法

本研究では、面接調査、質問紙によって、多角的に問題事象についてのデータを質的・量的に収集分析を行った。

(1) 聴覚障害学生への面接調査： 聴覚障害学生を対象として、聴覚障害学生の英語力、英語学習に対する意識や意欲、英語教育の担当教員への要望等について調査する。

(2) 英語担当教員への面接調査： 聴覚障害学生を指導する英語担当教員を対象として、授業での指導上の工夫や課題について調査する。

(3) 海外における聴覚障害者への語学教育に関する文献研究： 海外の聴覚障害学生への外国語指導の研究をまとめ、日本の聴覚障害学生の指導の参考とする資料を作成する。

(4) 聾学校高等部英語教員への質問紙調査： 大学で学ぶ聴覚障害学生の英語指導の配慮に関する基礎資料を収集することを目的として、聾学校高等部の英語担当教員を対象に、大学進学を希望する聴覚障害生徒に対する英語教育の実態調査を行う。

(5) 聴覚障害学生の英語教育についてのブックレット作成： 国内外で行った授業観察と、質問紙調査、面接調査の結果に基づいて、より良い聴覚障害学生の英語教育の基本と実践例を収録したブックレットを作成する。

(6) その他： 本研究代表者及び分担者による現場教員への研究結果公表と交流会を企画する。

4. 研究成果

(1) 聴覚障害学生への面接調査の結果： 本研究では、聴覚障害学生5名を対象としてインタビュー調査を実施し、学生の英語学習に対する意識調査と、英語講義における教育的ニーズの実態調査を行い、その現状と課題を整理した。その上で、大学で学ぶ聴覚障害学生の英語教育の実践の在り方について検討することを目的とした。調査の結果、聴覚障害学生は個人差があるが大学の英語担当教員の授業の配慮、パソコンテイクやノートテイクによる情報保障、他の学生の支

援を受けつつ、学習を進めていた。しかし、聴覚障害学生の回答から大学の英語講義への教育的ニーズが多岐にわたることがわかった。今後の聴覚障害学生の英語教育については、聴覚障害学生を前提としたカリキュラム、教員の聴覚障害学生の理解の向上、聴覚障害学生自身の英語力の向上、聴覚障害学生の入学前の英語学習の積み重ね、高等教育機関におけるエンパワメント指導等の課題があり、その解決に向けた検討が必要であることが明らかにされた。

(2) 英語担当教員への面接調査：本研究では、聴覚障害学生と健聴学生とが同時に英語の授業を受ける多くの大学の現状の中で、1) 音声上の聴取・理解や産出能力にハンディキャップを抱える聴覚障害学生に対して、具体的にどのような指導がなされているか、2) そうした指導を通じて、聴覚障害学生と健聴学生との相互理解がどの程度実現できているかについて、愛知教育大学で実際に聴覚障害学生が受講する授業を担当した教員に対して質問紙調査を行い、現状の把握と将来に向けての提言を行うことを目的とした。その結果、英語教員は聴覚障害学生の英語の「読む」「書く」力の向上を重視しつつも、個々の学生の実態に合わせて指導していることがわかった。また、英語担当教員は、聴覚障害学生と共に受講している健聴学生の理解を求めつつ協働学習への工夫を行っていた。その際に聴覚障害学生自身のニーズを把握した上での協働学習が課題となることが明らかとなった。これらの結果を踏まえ、聴覚障害学生と健聴学生の垣根を越えたユニバーサルデザインを目指した英語授業を模索していくことの重要性が提案された。

(3) 海外における聴覚障害者への語学教育に関する文献研究：聴覚障害学生に対する授業経験が少ない英語教員にとって、手話に頼らないインクルージョン教育方法の開発は大きな課題である。海外での研究及び教育実践の文献に基づいて、教員が手話を用いることなく、聴覚障害学生と健聴学生が合同で受講する英語授業において効果的と考えられる具体的な授業運営および指導方法を考察した。特に、1) 授業運営や指導に際しての環境整備や基本的配慮事項、2) 聴覚障害学生に対する教育実践の中から、健聴学生にも有効と考えられる技能別指導方法、とりわけ語彙指導、文法指導、リーディング・ライティング指導、音声関連指導、3) ICT機器の使用法と教材の3点に焦点を当てた。教授方法に関連する配慮事項や教育実践方法を最近の文献から抽出し、それらを実りのある方法で統合した指導法の在り方を検討した。

(4) 聾学校高等部英語教員への質問紙調査の結果：大学進学を希望する聴覚障害生徒の英語力は英語検定試験4級程度から2級程度まで様々なレベルであることがわかった。聾学校高等部の英語教員は生徒の実態を踏まえつつ、聴覚障害生徒が理解しやすいコミュニケーション、指導上の配慮・工夫、課題を整理した上で、英語力の定着に向けた教育実践を行っていることがわかった。聴覚障害生徒は、英語以外の教科の基礎学力や日本語力が不十分であることが多いが、生徒の聴覚障害だけでなく「見て理解する学習方略」を検討し、大学での学びへの動機付けを高め、意欲的に学んでいける環境を整備していくことが課題であることが明らかにされた。

(5) 聴覚障害学生の英語教育についてのブックレット作成：ブックレット「聴覚障害学生の英語教育支援・ブックレット - 英語の授業を担当する大学の先生のために - 」を作成し、国内の大学・聾学校に配布した。内容は、1) 大学における聴覚障害学生支援の概要、2) 聴覚障害学生の理解、3) 聴覚障害学生の具体的英語指導、4) 聴覚障害学生の英語の学び(現役学生・社会人)、5) 聴覚障害学生が履修する英語授業における担当教員の取組みの5点についてまとめた。一般大学で聴覚障害学生を指導する英語担当教員に、聴覚障害学生の理解と配慮、英語授業での指導上の工夫を紹介する他、当事者の聴覚障害学生・大学を卒業した社会人の声、英語授業の事例を提供することができた。

(6) その他：ブックレットの作成後に、本研究代表者及び分担者による現場教員への研究結果公表と交流会を企画したが、新型コロナウイルスの感染拡大の影響があり、開催を中止した。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 寺田理紗, 岩田吉生	4. 巻 15
2. 論文標題 聴覚障害学生の英語講義のリスニングにおける配慮の実態とその課題に関する研究 - 愛知教育大学の聴覚障害学生を対象として -	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 障害者教育・福祉学研究	6. 最初と最後の頁 73-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 寺田理紗, 岩田吉生	4. 巻 14
2. 論文標題 聴覚障害学生の英語学習に対する意識と大学の英語講義への教育的二 - ズに関する研究 - 愛知教育大学の聴覚障害学生を対象として -	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 障害者教育・福祉学研究	6. 最初と最後の頁 49-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 田口達也, 岩田吉生, 小塚良孝, 浜崎通世	4. 巻 17
2. 論文標題 聴覚障害学生に対する外国語指導方法 - 海外からの実践的示唆 -	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 教養と教育	6. 最初と最後の頁 16-23
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 浜崎通世・岩田吉生・田口達也・小塚良孝	4. 巻 16
2. 論文標題 聴覚障がい学生に対する教室での具体的英語指導 愛知教育大学における取組と課題	5. 発行年 2016年
3. 雑誌名 教養と教育	6. 最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 寺田理紗・岩田吉生	4. 巻 13
2. 論文標題 聴覚障害学生の英語教育の課題に関する文献的検討	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 障害者教育・福祉学研究	6. 最初と最後の頁 147-151
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

[学会発表] 計3件(うち招待講演 1件/うち国際学会 0件)

1. 発表者名 田口達哉
2. 発表標題 語学教育における聴覚障害学生への合理的配慮と教育の質保証のジレンマ - (分科会3「教育の質保証と障害学生支援のあり方をめぐる問題 合理的配慮と教育の質の間のジレンマ」)
3. 学会等名 第13回日本聴覚障害学生高等教育支援シンポジウム・分科会3(20171027-20171028)・札幌学院大学・(招待講演)
4. 発表年 2017年

1. 発表者名 鶴飼歩・岩田吉生・藤嶋桃子
2. 発表標題 大学進学を希望する聾学校高等部生徒の英語教育の実態調査(1) - 教員のコミュニケーション等の配慮と英語に特化した配慮を中心として -
3. 学会等名 日本特殊教育学会第57回大会.(20190921-20190923)・広島大学・東広島キャンパス.
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 岩田吉生・鶴飼歩・藤嶋桃子
2. 発表標題 大学進学を希望する聾学校高等部生徒の英語教育の実態調査(2) - 大学進学に関わる英語指導、英語指導における課題の検討 -
3. 学会等名 日本特殊教育学会第57回大会.(20190921-20190923)・広島大学・東広島キャンパス.
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 岩田吉生・浜崎通世・小塚良孝・小野雄一・田口達也（編著）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 愛知教育大学	5. 総ページ数 63
3. 書名 2016～2019年度 文部科学省科学研究費補助金 基盤研究（C） 研究成果報告書（研究課題番号：16K04825）「聴覚障害学生の英語学習実態調査と英語力向上に向けての提言」	

1. 著者名 岩田吉生・浜崎通世・小塚良孝・小野雄一・田口達也（編著）、今村彩子・上田大貴・河合茉奈・谷本佳子・柘植香穂・牧谷陽平（著）（2020）	4. 発行年 2020年
2. 出版社 愛知教育大学	5. 総ページ数 82
3. 書名 聴覚障害学生の英語教育支援・ブックレット - 英語の授業を担当する大学の先生のために -	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	浜崎 通世 (Hamasaki Michiyo) (10262940)	愛知教育大学・教育学部・准教授 (13902)	
研究分担者	小塚 良孝 (Kozuka Yoshitaka) (40513982)	愛知教育大学・教育学部・准教授 (13902)	
研究分担者	小野 雄一 (Ono Yuichi) (70280352)	筑波大学・人文社会系・教授 (12102)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究 分 担 者	田口 達也 (Taguchi Tatsuya) (70411189)	愛知教育大学・教育学部・准教授 (13902)	